

## 日米の書籍販売動向

米国国勢調査局の速報によると2015年の書籍販売金額は前年の108.9億ドル(1.31兆円)から111.7億ドル(1.34兆円)へと2.5%増加した。これは2007年以来初めての増加ではあるが、同年に記録した170億ドル(2.04兆円)と比べると34.3%の大幅な減少となっている。一方日本の2015年の書籍販売額は7,419億円(前年比1.7%減)で、ピークであった1996年の10,931億円から32.1%の減少となっている。

ピーク時との比較では、減少率は日米とも似たような数字にはなっているが、日本のピークが1996年と19年も前であったのに対し、米国では2007年と8年前にすぎず、その減少の勢いははるかに大きかった。米国の書籍販売額がこのまま増加に転じるのか、再び減少に転じるのかはまだ予想がつかない。

なお書店で売上トップ10の書籍の平均価格を日米で比較してみたところ、米国(Barns Noble)では16.47ドル(約1,977円)であったのに対し、日本(丸善&ジュンク堂)では1,247円と米国の63%にすぎない。19年にもわたり売り上げが減少を続けているうちに、書籍の販売価格が安いことが、日本の出版物バリューチェーン(出版、取次、書店、印刷・製本)全体に対して厳しい状況を強めている。

## POPやディスプレイモデル作成用の大型3Dプリンタ

イスラエルのMASSIVit 3D社はデジタルプリンタ分野の技術者により2013年に設立された3Dプリンタメーカーで、POPやディスプレイモデル作成用の大型3Dプリンタを開発している。特殊なGel Dispensing Printing (GDP) 技術により、最大サイズ1.8×1.5×1.2mの製品を作成でき、ビジュアルコミュニケーション市場をターゲットとしている。同社に対して3Dプリンタ最大手のストラタシス社が出資を発表しており、今後の動向が注目される。

このようなビジュアルコミュニケーション市場をターゲットとした製品が実用化されてくると、印刷会社がプリントベースのPOPや各種ビジュアルコミュニケーションだけでなく、立体物のPOP提供も可能となってくる。同社はdrupaにもHall7aに出展予定。

<http://www.massivit3d.com/>

## 英国でDMが回復

英国のマーケティング会社であるWilmington Millenniumが2,000名を対象に2015年末に行った調査によると、DMが企業と消費者を結ぶ良い手段であると回答した人は48%で、前年より7%も増加した。最も好ましいダイレクトマーケティングの手法として44%の人がDM及び宅配チラシを選び、eメールの42%がそれに続いた。一方、最も評価が低いのはウェブのポップアップ広告の2.7%であった。

かつてはむやみやたらに送られてきたDMが、ここ数年でよりターゲットされた顧客に送られるようになったために、DMに対する評価が向上している。DMの発行部数はピークであった1980、90年代に戻ることはないが、2015年には前年を上回り、2016年も増加が見込まれる。

なお英国のDM印刷分野上位10社の顔触れは以下の表のとおり。(出典: PrintWeek)

## 英国のDM印刷 上位10社

企業名	DM 売上(億円)
1. DST Output UK	264
2. Communisis	243
3. APS Group	132
4. Adare	104
5. Howard Hunt	87
6. Paragon Group UK	84
7. CFH Docmail	67
8. Anton Group	66
9. GI Solutions Group	64
10. Eclipse	63

1 ポンド = 160円